



宮崎大学教育・学生支援センター特別教授

谷口 浩美 さん

旧南郷町（現日南市）出身。小林高校在学中は全国高校駅伝に3年連続出場し、大会2連覇に貢献。大学卒業後は世界陸上大会史上初の金メダル獲得、男子マラソン代表として2度のオリンピック出場を果たすなど、国内外のマラソンで活躍。現役引退後、実業団や大学の監督などを経て現職。

駅伝部で学んだことがマラソン人生の原点
私は体育の教員になる夢があり、長距離が強く、普通科で勉強もがんばれる小林高校に入学しました。高校時代は駅伝部で、いろいろなことを書き留めてそれを活かす練習日誌を書いていました。合宿所に20人くらいが住んでいて、トイレはひとつ、洗濯機も2台しかなかった。なので、時間を上手く使うということを学びました。試験や試合では、日程に合わせて自分でスケジュール

を管理することが大切です。細かくスケジュールを書いていくと、実は時間がないということに気が付きます。そのことに早く気付いた者勝ちです。大学1年の時には、陸上をやめたいと思いました。なかなか練習ができず、自分でスケジュールを立てられなくなると自暴自棄になりました。そんなときに読み返したのが、小林高校3年間の練習日誌です。顧問の外山方剛先生が日誌に書いてくださったことを書き並べてみると、自分の1年間のバイオリズムが

「内から成長しない者は基礎が弱い！」
分り、今こんなことをしなさいといけない、こんなことをやれば大丈夫だと分かってきました。今年の宮崎大学入学式の学長訓示で『困難にぶつかったら過去に学べ。未来は過去の中にある』という言葉がありましたが、大学時代に経験からこのことを理解できていたのはよかったです。と思います。
夢に邁進してほしい 母校の後輩たちへエール
大学時代や実業団時代に教員採用試験を受けました。が、残念ながら合格しませんでした。それで、25歳のときにオリンピックに行きたいと思いました。トップアスリートになるには、「練習」「睡眠」「食事」を徹底して規則正しくやれるかどうかだけです。これには小林高校で教わった「規則正しい生活習慣を身につける」ということが大切で、スケジュール管理が大事になってきます。



校庭にたたずむ「立志鍛錬」の石碑

「青少年の志は純粋に高くあり、自らの清らかさと厳しさで鍛える」
創立60周年を記念し、昭和56年に校訓として制定。揮毫は同校卒業生で日本銀行第23代総裁を務めた森永貞一郎氏によるもの。



小林高校 100 周年

～伝統校のこれまでとこれから～

今年5月、小林高校が前身の旧制小林中学校創立から数えて100周年を迎えました。進学校として、多数の大学進学者を送り出してきた同校。駅伝やバスケットボールの強豪校としても全国的に知られています。今回は、小林高校が歩んできた100年の道のりとこれからのについて紐解きます。

旧制中学から100年 創立記念式典を開催

11月13日（土曜）、小林市文化会館で宮崎県立小林高等学校創立100周年記念式典が開催されました。式典では、永倉英了校長による式辞や来賓による祝辞のほか、小林高校の前身である旧制小林中学校と旧制小林高等女学校の校歌も披露されました。また、式典後には同校の卒業生（昭和54年卒）で、



2度のマラソンオリンピック代表を務めるなど国内外のマラソンで活躍した、谷口浩美さんが記念講演を行いました。なお、式典前には、在校生による来賓へのお茶の振る舞いが行われたほか、式典前のアトラクションでは、地域の指導者の指導を受けて練習に取り組んだ高校生が、「真方一区兵児踊り」と「細野一区輪太鼓踊り」を披露するなどして式典を盛り上げました。

Interview
100周年キャッチフレーズ
つなげろ伝統のタスキ 思いを永遠へ

キャッチフレーズ考案者
3年生 奥野陽大 さん

小林高校は駅伝が有名ですが、駅伝は選手全員が協力してタスキをつなぐことが醍醐味だと思います。小林高校も歴代の先輩から後輩へ伝統のタスキをつないでいけたらと思います。このキャッチフレーズを考えました。自分の卒業後も、地域住民の方にいい高校だと思ってもらえる学校であり続けてほしいと思います。

「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」という言葉があります。今年、男子駅伝部は残念ながら全国大会に行くことができませんでした。勝負は、緊張感と危機感がないチームが負けます。ですが、今から再スタートできます。負けは負けじゃありません。負ける次には勝ちがあります。私たちは、本番で楽をしたいから練習を厳しくします。受験も同じです。「不思議な勝ち」を求めたいため、一つずつ自分の苦手なことを克服していくことが大事です。だから、練習や勉強で厳しいことに立ち向かうしかありません。小林高校は私にとって原点です。皆さんも、自分の目指すこと、やりたいことに邁進してください。皆さんにしか小林高校の101年目、102年目の歴史を築くことはできません。一年一年を大切に、小林高校で何かをできたという3年間を、精一杯過ごしてくれたらと思います。がんばってください。



全国高校駅伝2年連続7度目の優勝の瞬間。2位と1分56秒、約600メートルの差をつけて勝利しました。



決勝戦で鶴鳴女子高（長崎県）を破り、ウインターカップ初優勝を果たしました。



昭和32年12月22日に大阪で行われた第8回全国駅伝競走大会では、大会記録を1分以上締めての初優勝。小林へ凱旋後は駅前市民へ優勝報告が行われ、自衛隊車両での凱旋パレードが行われました。



⑤旧制小林中学校第2回卒、⑥小林高等女学校ミシン実習の風景（昭和11年ごろ）⑦昭和23年に両校が合併し小林高等学校設置。男女共学の時代へ（昭和24年ごろ）

年表と写真で振り返る

コバ高 100 年の歩み

小林高校は旧制県立小林中学校と旧制県立小林高等女学校とが統合し、昭和23年に創立。前身である旧制小林中学校と旧制小林高等女学校の創立は大正時代までさかのぼります。ここでは、コバ高が歩んできた100年を振り返ります。

大正8年6月
 小林町立実科高等女学校（後の県立小林高等女学校）創立
 大正10年5月1日
 旧制県立小林中学校開校式（創立記念日）
 昭和23年4月
 旧制県立小林中学校と県立小林高等女学校が合併、小林高等学校設置

昭和23年7月
 通常課程農業科を設置

昭和23年10月
 野尻分校（定時制）、加久藤分校（定時制）設置

昭和24年5月
 加久藤分校廃止

昭和24年7月
 高原分校（定時制）設置

昭和25年3月
 高原分校（通常課程）設置

昭和25年3月
 通常課程に家庭科（後の家政科）、商業科を設置

昭和27年6月
 高原分校が独立し、県立高原畜産高等学校（後の高原高校）創立

昭和28年12月
 駅伝部、第4回全国高校駅伝競走大会に初出場（第15位）

昭和32年12月
 駅伝部、第8回全国高校駅伝競走大会で初優勝（2時間14分10秒）

昭和35年12月
 駅伝部、第11回全国高校駅伝競走大会で2度目の優勝（2時間13分17秒）

昭和36年12月
 駅伝部、第12回全国高校駅伝競走大会で2年連続3度目の優勝（2時間13分40秒）

昭和37年4月
 定時制農業科の募集を停止

昭和39年4月
 商業科募集停止、県立小林商業高等学校へと分離独立

昭和43年4月
 通常課程農業科の募集を停止

昭和43年12月
 駅伝部、第19回全国高校駅伝競走大会で4度目の優勝（2時間11分00秒）

昭和48年12月
 駅伝部、第24回全国高校駅伝競走大会で5度目の優勝（2時間11分56秒）

昭和49年4月
 野尻分校に全日制園芸科を設置

昭和52年3月
 野尻分校定時制家政科の募集を停止

昭和52年3月
 野尻分校定時制閉止式（定時制家政科閉科）

昭和52年12月
 駅伝部、第28回全国高校駅伝競走大会で6度目の優勝（2時間10分43秒）

昭和53年3月
 女子バスケット部、第8回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で初優勝

昭和53年12月
 駅伝部、第29回全国高校駅伝競走大会で2年連続7度目の優勝（2時間10分57秒）

昭和53年12月
 女子バスケット部、第8回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で初優勝

昭和53年12月
 女子バスケット部、第8回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で初優勝

昭和53年12月
 女子バスケット部、第8回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で初優勝

昭和53年12月
 女子バスケット部、第8回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で初優勝

昭和53年12月
 女子バスケット部、第8回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で初優勝

昭和53年12月
 女子バスケット部、第8回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で初優勝

昭和53年

昭和54年

昭和54年8月
 女子バスケット部、全国高校総体バスケットボール競技で初優勝

昭和54年10月
 女子バスケット部、国民体育大会（宮崎国体）で初優勝

昭和57年1月
 生物部、「読売科学賞」受賞（全国一位）

昭和57年5月
 皇太子・皇太子妃両殿下（現上皇・上皇后両陛下）が野尻分校へ行啓

昭和62年12月
 駅伝部、第38回全国高校駅伝競走大会で3位入賞（2時間06分47秒、県高校最高記録）

平成元年12月
 駅伝部、第40回全国高校駅伝競走大会で3位入賞（2時間05分53秒、県高校最高記録）

平成3年4月
 野尻分校全日制園芸科の募集を停止

平成5年3月
 野尻分校閉校

平成7年4月
 普通科体育コースを設置

平成8年4月
 家政科の募集を停止

平成10年3月
 家政科閉科

平成11年10月
 第54回国民体育大会で小林高校男子バスケットボール部主体の県選抜チームが初優勝

平成11年12月
 男子バスケット部、第30回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で準優勝

平成12年8月
 男子バスケット部、全国高校総体バスケットボール競技で準優勝

平成12年12月
 男子バスケット部、第31回全国高校バスケットボール選抜優勝大会で準優勝

平成18年12月
 女子駅伝部、第18回全国高校駅伝競走大会で6位入賞（1時間09分12秒、県高校最高記録）

平成23年4月
 県立都城きりしま支援学校を併設

平成26年4月
 普通科探究科学コースを設置

平成27年12月
 駅伝部、第66回全国高校駅伝競走大会で5位入賞（2時間04分15秒、県高校最高記録）

令和元年11月
 第11回全日本女子選抜ウエイトリフティング選手権大会64kg級優勝

令和2年2月
 第41回全日本ジュニアウエイトリフティング選手権大会64kg級優勝

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年

令和3年5月
 創立100周年



野尻分校を訪問された皇太子・皇太子妃両殿下（上皇・上皇后両陛下）。農機具や野菜・花き温室、ピニールハウスの手入れ状況などをご覧になりました。



野尻分校園芸科最後の卒業生。現在、野尻分校跡地には「道の駅ゆ〜ばるのじり」が置かれており、付近には野尻分校跡があったことを記録する石碑が置かれています。



⑤最後の家政科生の授業風景
 ⑥家政科最後のファッションショー（どちらも平成9年）



全国高校バスケットボール選抜優勝大会準優勝（平成11年）



探究活動の様子（平成26年）



女子選手の活躍が目覚ましいウエイトリフティング部



イベントで練習の成果を披露する男女駅伝部。



女子バスケット部は13年連続のウインターカップ出場。



10月に行われたウインターカップ県予選では、第4クォーターで逆転し全国の切符をつかみました。



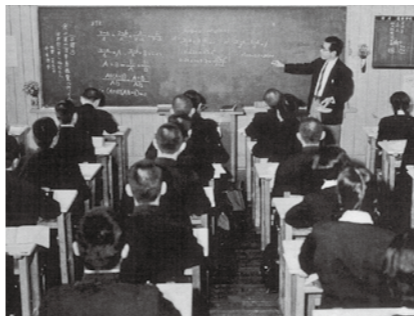
令和3年度全国高校総体ウエイトリフティング競技では49kg級で準優勝を果たしました。

変わらぬもの 受け継がれる伝統

「立志鍛練」の校訓のもと、多数の大学進学者を送り出してきた進学校として、また駅伝部をはじめとする各部活動の活躍とおして、小林市のシンボルのひとつとなっている小林高校。時代は変わっても、文武両道の校風は在校生に受け継がれています。

コバ高名物課題学習で メキメキ学力アップ

昭和35年頃の小中学校生の全国統一テストで、宮崎県は最下位。大学進学を目指す優秀な中学生の中には、鹿児島市内の有名校に進学する生徒もいました。地元にも優秀な人材を残すためにも県全体の学力向上が叫ばれており、小林高校でも受験指導の充実が大き



昭和37年頃の授業風景



休み時間に次の教科の勉強中(昭和61年頃)

な課題となっていました。そのような中で生まれたのが小林高校名物「課題学習」。

配布した授業の予習・復習のプリントに必ず自宅で取り組んでから授業に臨むように指導。生徒一人ひとりの能力に応じた個別の学習計画も作成し、勉強時間や参考書の選定まで指導しました。

探究科学コースで世界 で活躍する人材を育成

現在もプリントの量や形式に変化はあるものの、伝統の「課題学習」は脈々と受け継がれています。生徒たちは自宅での学習のほか、休み時間や列車での通学時間なども活用。休日に自主的に登校する生徒もいるなど、友人たちと切磋琢磨し、授業の予習・復習に取り組むことで学力を伸ばしています。

平成26年には「世界で活躍できる人材の育成」を目指して、「普通科探究科学



TENAMU 交流スペースは人気の勉強場所のひとつ

が定着。それに比例して生徒の学力が伸び、昭和53年には国立大現役合格者数が初めて100人を突破しました。

コース」を新設。探究科学コースでは、他校との合同学習会や「大学訪問」で最先端の科学や最新の研究に触れるなど、学習意欲を高める取り組みを行っています。

また、探究科学コース設置当初から取り組んできたのが「探究活動」。1年生は「SDGs研究」、2年生は「課題研究」を行い、身近な課題や世界的な課題を大学や地域、企業との協働で解決しようと取り組んでおり、自ら学ぶ意欲の向上と問題解決能力の育成を目指しています。これらの取り組みにより、探究科学コースでは毎年のように難関大学への合格者を送り出しています。

小林高校の代名詞 男女駅伝部の戦績

コバ高の代名詞といえる駅伝部の歴史は、高校合併直後までさかのぼります。昭和25年当時、授業を抜け出したばかりの生徒や、教師にほろきを持って反抗する学生もいたという合併間もない時期。連帯感や共感性の欠けた学校に一体感を持たせようと当時の校長が目をつけたのが「駅伝」でした。

その後も、2度の連覇を含む7回の全国優勝を果たし、出場回数57回は、全国最多を誇ります。

女子駅伝部は、平成11年に創部。平成16年の全国高校駅伝では7位入賞、平成18年大会では6位入賞を果たし、そのときの1時間09分12秒は県最高記録として未だに破られていません。

男子駅伝部は、平成11年に創部。平成16年の全国高校駅伝では7位入賞、平成18年大会では6位入賞を果たし、そのときの1時間09分12秒は県最高記録として未だに破られていません。

駅伝と並んで小林高校を代表する部活動となっているのが、男女バスケットボール部です。

女子バスケットボール部は昭和53年に第8回全国高校バスケットボール選抜優

勝大会(ウインターカップ)で初優勝したのを皮切りに、翌54年には全国高校総体初優勝、宮崎国体初優勝の2冠を果たしました。

女子駅伝・男女バスケット部 年末に全国の舞台へ

女子駅伝部は、11月5日に行われた宮崎県高校駅伝で優勝し、全国高校駅伝に3年連続20回目の出場。12月26日(日曜)に、冬の都大路を駆け抜けます。10月30日に行われたウインターカップの県予選では、男子が4年ぶり13度目、女子が13年連続37度目の頂点に。12月23日(木曜)開幕の全国大会に男女揃って出場し、頂点を目指します。

Interview



小林高校2年生
生徒会長
町浦 ひなた さん

伝統ある小林高校で 友人と切磋琢磨する日々

将来の夢の実現のために大学進学をしたいと思い、小林高校に入学しました。生徒会と山岳部で活動しながらの勉強ですが、当たり前になっっているのに勉強が大変だとは思いません。休み時間などの時間は、友達と小テストの問題を出しあったり、数学の分からないところを教わったりもしています。友達から教えてもらうことで問題を解くコツを共有することができ、理解力の向上につながっています。

創立から100年。先輩方がタスキをつないでくださって今があるのだと思うので、節目の年に生徒でいられてとても光栄です。

先輩たちの想いを胸に 都大路で入賞を目指す

小学校のころから駅伝をはじめましたが、そのころから小林高校の駅伝部に入ることが目標でした。

昨年ほどではありませんが、今年もコロナ禍の影響で試合が少なかったり、県外での練習が中止になるなど苦しい思いもしました。しかし、全国高校駅伝の舞台で戦うことを目標に、全員が同じ気持ちで戦ってきました。

県大会で3連覇を果たせたのはうれしいですが、全国で戦うことを目指してきたので、去年・一昨年の先輩たちの想いも背負って、入賞を目指して走り抜きたいと思っています。

Interview



小林高校3年生
女子駅伝部主将
藤田 あい さん

ミラソウでの取り組みの一部を紹介します

後輩へ受け継がれるオオヨドカワゴロモの保全活動

平成 29 年から探究科学コースの生徒と県土木事務所が連携し、岩瀬川にのみ生息する国の天然記念物オオヨドカワゴロモの保全活動に取り組んでいます。

平成 30 年には「日伊科学宮崎会議 2018」で活動の成果を発表し、『イタリア大使賞』を受賞。昨年 2 月には三松小学校 4 年生とオオヨドカワゴロモについて研究内容をお互いに発表して交流するなど、研究成果を活かした活動も。

今年度の「ミラソウ」では、普通コースの生徒が活動の引き継ぎを目指して活動中で、先輩から後輩へとタスキが受け継がれています。



「ミラソウ」でのフィールドワーク「地域巡検」

地産地消を訴える動画を作成

小林の農産物の認知度向上を目指すグループでは、新型コロナウイルスの影響や後継者不足で悩む農家への支援ができないかを検討。

市や JA こばやしと連携し、若者向けのレシピ動画を作成しました。

直売所で農家にインタビューを行い、さつまいもを使ったレシピを紹介するなど、地産地消の推進を訴えかける内容になっています。



「学生まちづくり委員会」の設立目指す

地域創生を研究するグループは、地域の担い手不足解消には地元への関心や地元愛が必要で、学生のころからまちづくりに関わることが重要と考察。

しかし、現状では学生がまちづくりに関わる機会がなかなかないという問題があるため、問題の解決策として、学生が大人たちと一緒にイベントの企画や運営に継続的に携わることができる「学生まちづくり委員会」の仕組みを考えました。10月18日には、計画実現に向けて中屋敷史生教育長に対してプレゼンテーションを行いました。



には、計画実現に向けて中屋敷史生教育長に対してプレゼンテーションを行いました。

この10年で小林高校を取り巻く環境も大きく変化。高校生も、複雑化する社会に対応し、課題を発見し解決する能力や自分自身を理解する力が求められています。そのような大きな変化に順応しながら、地域に飛び出していくコバ高生の姿を紹介いたします。

地域に開かれた高校へ
地域に飛び出すコバ高生

「ミラソウ」で地域の課題解決を目指す

令和2年度から、探究科学コースでの「探究活動」の取り組みを活かし、全コースで「総合的な探究の時間」(ミラソウ)未来創造の時間を設けています。2年生は、コースの枠を超えて4〜5人のグループに分かれ、「SDGs」の17の目標にあわせて地域が

抱える課題を整理・分析。「安全に使える道路にする」、「新規就農者の確保」などという課題から、「ペットボトルで服をつくる」、「制服をジェンダー対応にする」というユニークなものまで、柔軟な発想と視点で問題を提起。関係者への聞き取りや調査で内容をブラッシュアップし、課題の解決を目指しています。

それぞれの立ち場で地域と関わるコバ高生

コバ高生は「ミラソウ」以外でもさまざまな活動で地域と関わっています。音楽部は例年、近隣の老人保健施設でミニコンサートを実施。美術部は、JR吉都線の利用促進のためにラッピング列車をデザイン



先輩から後輩へ研究が引き継がれます

また、野球部はシーズンオフを利用して野球教室を開催したり、青島太平洋マラソンに出場する支援学校生との伴走ボランティアにも参加しています。部活動以外にも、ボランティアで小中学生に勉強を教える生徒もいるなど、それぞれの立場で、自分自身にできることをとおして、地域に貢献しています。

Interview ～校長先生に聞きました～

これからも地域に密着し、地域のリーダーとなる人材を育成していきます

現代社会は、人口減少による少子高齢化、産業構造の急激な変化、AI・ICTの情報技術革新やSociety5.0の到来、さらには新型コロナウイルス感染症拡大による生活様式の変化など、大きな変化のただ中にあります。

この状況に対応しながら、いかに生きていくかが問われる時代であり、これからの担う生徒たちには、さまざまな変化に対応する柔軟性や創造性、他者と協働して課題の解決につなげる力などが求められます。

このような力を養成するため、本校では従来の教科の学習はもちろん、課題発見・解決型学習にも注力しています。「ミラソウ(未来創造の時間)」と名付けられた時間に、公的機関や企業の方の協力や指導を仰ぎながら、西諸地域の魅力や課題について自

ら考え、専門的知見も加えたうえで、地域発展の方策を研究しています。

12月には、1年生が「未来の小林」、2年生が「SDGs」をテーマに研究成果を発表します。

これらの研究で出た課題を「自分ごと」として捉え、自分のあり方や生き方について考え、自己の将来を切り拓く資質や能力を伸長することを期待しているところです。

これからも小林高校は、広い視野を持った地域のリーダーを育てる学校として、地域に密着した、地域から愛される学校であり続けます。



小林高校 校長 永倉 英了



高校受験を控えた中学生に、過去の入試問題などを解説するコバ高生



コロナ禍の前まで、音楽部が例年開催していた老人保健施設でのミニコンサートの様子



平成30年度には、JR吉都線利用促進のために美術部がラッピング列車をデザイン

「ミラソウ」の時間では、小林高校を存続させるためにはどうしたらいいかをテーマに活動しています。100周年を迎えるに当たって、今後小林高校はどうなっていくだろうと考えることがきっかけでした。活動の一環で中学生にアンケートを取って小林高校のイメージを尋ねると、「宿題が多そう」、「校風が古い」という意見がありました。このネガティブなイメージを変えていかないといいなと思っています。「ミラソウ」では、先生に正解を教わるのではなく、同じ目的を持った仲間と議論し、解決策を考えることが楽しいです。

ミラソウで仲間と一緒に議論するのが楽しい



小林高校2年生 星指 馨 さん

Interview